

## 序

当館は昭和50年の3月に「博物館紀要」第1号を発行して以来、今年度で早や7号を発行するに至りました。その間、「海洋博」の開催をはじめ、「沖縄県博物館協会」の発足や「熱海美術館名品展」の開催、或は館内の空調設備の整備等、いろいろと多忙の中を、学芸員の努力により、毎年紀要を欠かさずに発行し、その充実した調査・研究は、内外の研究家の間から好評を得ております。

今年度も「大恐竜展」をはじめ、移動展や渡名喜島の総合調査、並に同島特別展、沖縄県博物館協会総会、さらに九州地区博物館学芸員事務職員研修会等と、つぎつぎに行事が行われ、これまでに最も忙しい年度ではなかったかと思えます。でも、そのような多忙の中でも学芸員はたえず調査・研究をおこたらず、また、それを展示や教育普及の面にも反映させてきました。今年度もその調査・研究の結果が、本紀要7号にまとめられておりますので、本号もぎっと研究家の間には読みごたえがあることと思えます。

博物館は文化の殿堂であると同時に学術研究の場でもあり、また、そこに展示されたものは、いずれも詳しい調査や研究の裏付けがなければならないことは、申し述べるまでもありません。したがって、行事で多忙だから調査・研究がおろそかになったといういわけは成り立たないし、それらを怠れば博物館の質の低下や観客の減少につながることはいうまでもありません。私たちは、博物館紀要の充実が即ち博物館活動の充実に密接なつながりをもつことを思い、こんごも忙しくとも、立派な紀要を出すように頑張りたいと思えます。どうか御批評たまわるようお願いを申し上げます。

昭和56年3月

沖縄県立博物館長 外間正幸